

## 高 校 選 び (6)

## 国立大学入試、20年度よりマーク方式と民間試験が必須？

大学入学センター試験に替わり、2020年度から実施される大学入学共通テストの英語について、国立大学協会は2023年度までの4年間は、現行の大学入試センターが作成するマークシート方式の試験と、新たに活用する民間検定試験の両方を課す方針であると、10月13日に分かり新聞やテレビのニュースなどで報道されました。

国立大学協会は6月14日、東京都内で総会を開いたときには、大学入学共通テストに対して意見書を文部科学省に提出していました。その意見書では、文部科学省案の民間検定試験に関して、不確定な事項が多く、現行試験の廃止の判断は拙速という懸念を示していました。今回、来月に開かれる総会では、マークシート方式と民間検定試験の両方を課す案を提案することになりました。

文部科学省は、大学入学共通テストの英語の試験は、2024年度から民間検定試験に全面的に移行しますが、2020年度から2023年度の間を移行期間と位置づけています。そのため、国立大学を志願する場合、この4年間についてはマークシート方式と民間検定試験の両方を受けることになるのです。

国立大学協会としては、両方の試験を課すのは、国立大学ごとに英語のテスト形式が異なると、志願先変更が難しかったり、出来なかったりするケースが予想され、混乱するといった意見から、両方を課すことになったそうです。

国立大学が両方の試験を課すことになると、当然、私立大学に与える影響は大きいと考えられます。国立大学と私立大学の両方を志望する受験生を多く抱える私立大学では、国立大学同様に両方の試験を課すことができます。特に、文部科学省の英語外部検定の活用について「各大学は英語4技能を評価するように努める」という記載があり、大学入学共通テストの英語だけではなく、民間検定試験の両方を課す私立大学は少なくないと思います。大学入学試験か、民間検定試験のいずれかしか課さない私立大学はあるかもしれませんが、出願大学を広くするなら、両方の試験を受験しておくべきです。大学共通テストのみの大学を受験しようとする、自ら志望できる大学を狭めてしまう結果になります。

皆さんが高校に入学して大学への進学を希望するなら、英語に関しては民間検定試験を受験しておかなくてはなりません。文部科学省の「高大接続改革の実施方針等の策定について」に記されている民間検定試験には、英検、GTEC、TOIEC L&R、TOIEC S&W など8つの民間検定試験が紹介されています。民間検定試験は出題方法、成績表示、難易度などが同じではありません。どの民間検定試験を英語試験として課し、ど

のように活用するのか、費用はどうするのか、などを文部科学省は検討しています。

本校では、本年度の1年次より民間検定試験 GTEC (Global Test of English Communication) を実施しています。GTEC はベネッセコーポレーションが実施団体であり、受験人数は約 94 万人で年 2 回実施されています。文部科学省は、本年度中に対象となる民間検定試験を決定するといわれています。

実際に正式に決定されれば、両方の試験対策をしなくてはならず、現行の大学入試センター試験より時間的にも、経済的にも負担は大きくなります。

今後のことを考えると、なるべく早くから民間検定試験を受検し、慣れておく必要があると思います。また、英語は「読む・聞く・話す・書く」の 4 技能を伸ばすことを意識した勉強方法が、これまで以上に重要となります。

### **A0 入試、推薦入試は、どのように変わるのか！**

中学 3 年の皆さんが現役時に受験する 21 年度入試から大学の入試選抜方式は大きく変わります。現行の一般入試、A0 入試、推薦入試は、一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜となります。なかでも A0 入試、推薦入試は面接や作文、場合によって提出書類のみで、学力不問となっている大学も少なからずあります。現に私立大学の新入生の半分は学力試験を課されないで入学している状況です。その結果、全体の入学生の 2 割は中退や休学という状況になっているといわれています。こうしたことから、高大接続改革の新ルールに基づき、大学入試選抜の見直しがなされ、文部科学省より改善点が示されました。

総合型選抜では、活動報告書、入学希望理由書、学修計画書などが記載された志願者本人の資料を活用し、詳細な書類審査と丁寧な面接によって評価します。学校推薦型選抜では、推薦書の中で知識・技能の習得、それを基にした思考力、判断力、表現力、さらに主体性を持ち他の人々と協働して学ぶ態度、すなわち学力の 3 要素を多面的に評価します。また、実際の総合型選抜、学校推薦型選抜では、知識・技能及び思考力、判断力、表現力を評価するため、各大学が実施する評価方法等、又は大学共通テストのうち、少なくともいずれか一つの活用を必須化します。

本校の「総合的な学習の時間」は、次期学習指導要領の「総合的な探究の時間」を意識して設けられています。インタビュー実習、インターンシップ、プレゼンテーションなど総合学科で培ってきたコミュニケーション力を育む教育内容に、(株)教育と探究社のクエストエデュケーションと連携を図って企業からのミッションをグループで協議し、ミッション達成の提案を行うことで「生きる力」を育むための教育内容も取り入れた「総合的な学習の時間」を展開しています。この学びをとおして総合型選抜や学校推薦型選抜にも対応できる学力を育成していきます。